

平成 25 年度 多自然川づくりの取組事例

平成 25 年度多自然川づくり中国ブロック会議において、各機関より下記の多自然川づくりの取組事例について報告があった。

機 関 名	取 組 事 例
	概 要
国土交通省 倉吉 河川 国道 事務所	<p>工事発注段階の施工条件・配慮事項等の明示の工夫</p> <p>天神川水系小鴨川中流部においては、堆積土砂・樹木繁茂による河積阻害、侵食の進行といった治水上の課題を解消するため河床整備工事を実施する必要がある区間である。</p> <p>設計にあたっては、良好な河川環境の維持（レノ河原維持）や、土砂再堆積等の抑制、貴重種への拝領等を念頭に実施したが、それらを工事発注段階において入札参加業者へどのように明示したかを事例紹介する。</p>
国土交通省 日 野川 河川 事務所	<p>多自然川づくり工事実施における施工者との調整</p> <p>多自然川づくり工事において、設計思想等を施工業者に伝えるため、発注時の契約図面に諸元表を添付。諸元表は多自然川づくり設計の思想（施工要領）及び規格値を示したものであり、これにより施工業者との情報共有を行った。</p> <p>これにより施工業者は、多自然川づくり工事と理解できたが、一方で思想・イメージに近い部分も多く、現地においてどのような施工をすれば具体的な形になるのか判断できない部分があった。</p> <p>本工事においては、事務所（計画）、出張所（監督）、施工業者が何度も協議し、イメージを共有することで、求める多自然川づくりを具体的な形として工事実施を行った。</p>
国土交通省 山口 河川 国道 事務所	<p>河道掘削における詳細設計段階の取り組み事例について</p> <p>佐波川下流部について、流下能力確保のための河道掘削を今年度より継続実施していく予定であるが、掘削規模が大きいため、環境への配慮や樹木の再繁茂防止、土砂の再堆積防止のための工夫などが必要であり、設計（断面設定）にあたってそれらを考慮した掘削形状を決める必要がある。</p> <p>環境配慮やコスト削減に向けた掘削形状設定の取り組み事例を紹介する。</p>
国土交通省 鳥取 河川 国道 事務所	<p>千代川上流域における多自然川づくりの目標設定について</p> <p>千代川における河川整備は H25 年度までに下流域・中流域での整備計画上的改修が完了するため、今後は、計画高水位を超過する上流域において整備計画流量が安全に流せるよう河道掘削を予定している。</p> <p>河道掘削の検討を行うのにあたり、千代川上流域の河道特性や環境特性を踏まえ、持続性のある河道整備目標を設定し、整備方法や整備内容の妥当性を踏まえて最適な河道整備方法・順序を検討している。</p> <p>持続性のある河道整備の目標は、千代川上流域の河川特性、治水・利水・環境・維持管理の特調や関連性等について整理し、河川が果たすべき機能を検討し、目指すべき河川整備の方向性を決定する。</p>
国土交通省 出雲 河川 事務所	<p>大橋川改修の計画</p> <p>中海と宍道湖を繋ぐ大橋川(全長 7.6km)は、多様な自然環境と古くから人との関わりを感じさせる景観を有する河川であり、河川改修にあたっては自然環境と景観の保全・再生が多くの人から求められている。</p> <p>今回は、住民との合意形成や専門家の指導・助言等を踏まえた計画・設計プロセスの一例として向島地区、竹矢矢田地区の取り組み事例を紹介する。</p>
国土交通省 浜田 河川 国道 事務所	<p>高津川における河床掘削（試験施工）について</p> <p>高津川では、基本方針を平成 18 年、整備計画を平成 20 年に策定しており、当面の整備方針としては、下流部益田市街地において、無堤部の築堤を実施するとともに、築堤完了後、流下能力が不足する箇所の河床掘削を段階的に実施していく予定。現在、今後の河床掘削に向けて、段階整備・掘削手法等について検討していると</p>

	<p>ころ。</p> <p>高津川はアユの産卵場としても有名であり、河床掘削にあたり産卵場へ与える影響についても配慮する必要がある。</p> <p>掘削方法の検討については、学識者、漁協、地元を含めて、『意見交換会』を設立し、意見を頂きながら検討を行っている。</p> <p>H24年度は産卵場にて試験施工を実施し、H25年度は出水後の状況についてモニタリングを行い、シミュレーション結果との比較検証を行うこととしている。</p>
<p>国土交通省</p> <p>福岡河川国道事務所</p>	<p>流程と環境を意識した河床掘削</p> <p>●河川整備計画目標流量を確保するための低水路部の段階的掘削を行う。</p> <p>改修（五ヶ村用水堰の撤去による湛水域の消滅・下流河道への影響、1～2mの河床掘削）によるインパクトを段階的に掘削し流程・環境を確認する。</p> <p>●掘削断面形状は、流程並びに生物層等への配慮により決定する。</p> <p>再堆積抑制：堰撤去により、堰下流側の流路の変化について、堰設置前の航空写真で推定した。小規模洪水（流速が遅い洪水）の冠水頻度を低下させ堆積を抑制する。</p> <p>●環境目標</p> <p>河道：維持管理の容易な（再堆積や樹林化し難い）河川を前提とし、生物の生息環境・生育環境の保全・創出を行う。</p> <p>水際：水際部の植生は、流心部に比べ流速を低減させ、遊泳力の小さい魚類（タモロコ、イトモロ等）、稚魚等の良好な生息空間を創出する。</p>
<p>鳥取県</p> <p>県土整備部</p> <p>河川課</p>	<p>東郷池改修計画における地域との合意形成について</p> <p>鳥取県中部に位置する二級河川橋津川水系東郷池の周辺地域は、浸水被害が頻発しており、治水安全度の向上が課題となっている。東郷池は風光明媚な県内有数の観光地でもあり、周辺地域は東郷池と共に風土や歴史・文化を育んでおり、地域の財産である東郷池の魅力を損なうような改修は極力避けなければならない。そのため、地域の意見を重視すべきと考え、住民参画による計画立案を進め、合意形成を図った。その取組み事例を紹介する。</p>
<p>国土交通省</p> <p>岡山河川事務所</p>	<p>アユモドキの保全について</p> <p>岡山河川事務所では、ドジョウの一種で国の天然記念物、種の保存法にも指定されなど絶滅の危機にある「アユモドキ」を保全するため、平成19年に自然再生協議会を設置し学識者・住民意見を反映しながら試験産卵場の整備、モニタリングを行い産卵環境の基礎資料の収集、保全活動に取り組んでいる。今後は整備した試験産卵場の管理を地元に移行していく計画である。</p>
<p>広島県</p> <p>土木局</p> <p>河川課</p>	<p>京橋川の底質改善事業のモニタリング調査について</p> <p>広島市中心部を流れる京橋川では、河床にヘドロが堆積しているため、生態系や河川利用に悪影響を及ぼしている。平成22年度より河川環境の改善のために底質改善事業に取り組んでおり、河床の干潟部に石炭灰造粒物をさまざまな方法で設置することで、水質浄化と底質浄化を図っている。</p> <p>施工後の水質と底質の変化を把握するため、施工前から今年度までモニタリング調査を3ヶ年継続しており、その調査項目と結果、それを受けての今後の方針について示す。</p>
<p>国土交通省</p> <p>三次河川国道事務所</p>	<p>レキ河原再生の課題</p> <p>自然再生事業として昭和40年代の河川環境（レキ河原）を目標とし、江の川上流の河道内の樹林化が進む箇所において、平成17年から平成22年まで行ってきた「レキ河原の再生」について、事業の概要と事業実施後の調査結果、現在の状況、調査結果から得られた課題とその対策、今後の方針等について説明を行う。</p>

<p>岡山県 土木部 河川課</p>	<p>小野田川等における多自然川づくりについて</p> <p>岡山県南東部に位置する一級河川小野田川は、平成2年災害において多大な浸水被害を生じたことから、再度災害防止を目的に河川改修を実施しているが、環境配慮に係る急激な方針の変化等により、様々な種類・勾配の護岸が混在する等の課題を抱えた河川である。本河川の事例を中心に、岡山県における多自然川づくりの課題について発表する。</p>
------------------------	--